

患者体験調査について

—平成30年患者体験調査報告書抜粋—

- ① 治療開始前までの体験について P1
- ② 治療中の体験について P2
- ③ 就労・経済について P3
- ④ 社会的状況について P4
- ⑤ がんと診断された時からの緩和ケアについて P5

① 治療開始前までの体験について

担当医や医療スタッフによる十分な説明・情報提供があった人の割合など、福岡県は全体に比べ、高い値となっている

	福岡県	全体
治療開始前に、病気のことや療養生活について誰かに相談できた人	82.8%	76.3%
治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた人	81.9%	75.0%
治療開始前に、妊孕性への影響に関して医師から説明があった人(40歳未満)	58.4%	52.0%
実際に妊孕性温存の処置を行った人(40歳未満)	4.9%	8.9%

② 治療中の体験について

相談しやすい医療スタッフの存在や、受けた治療に納得した人の割合など、福岡県は全体に比べ、高い値となっている

	福岡県	全体
医療スタッフが耳を傾け理解しようとしてくれていたと思う人	74.3%	71.9%
専門的な医療を受けられたと思う人	83.9%	78.7%
これまで受けた治療に納得している人	85.7%	77.3%
外見の変化に関する悩みを誰かに相談できた人	29.3%	28.3%

③ 就労・経済について

職場の勤務上の配慮や、就労継続について医療スタッフから話があった人の割合など、福岡県は全体に比べ、高い値となっているが、がん治療のため、退職・廃業した人の割合も全体と比べ高い値となっている

	福岡県	全体
診断時に働いていた職場や仕事上の関係者にがんと診断されたことを話した人	89.4%	81.0%
職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと思う人	76.3%	65.0%
治療開始前に就労の継続について医療スタッフから話があった人	53.3%	39.5%
がんの治療のため、退職・廃業した人	25.5%	19.8%

④ 社会的状況について

がん患者の家族の悩みを相談できる支援が十分あると思う人の割合など、福岡県は全体に比べ高い値となっているが、がん相談支援センターやピアサポートを知っている人の割合は全体より低い値となっている

	福岡県	全体
がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う人	54.8%	47.7%
身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると思う人	47.8%	46.5%
がん相談支援センターを知っている人	63.4%	66.4%
ピアサポートを知っている人	26.5%	27.3%

⑤ がんと診断されたときからの緩和ケアについて

がんやがん治療に伴い痛みがない、気持ちがつかくなく感じる人の割合など、福岡県は全体に比べ高い値となっているが、
身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると感じる人の割合は全体より低い値となっている

	福岡県	全体
がんやがん治療に伴い痛みがないと感じる人	73.7%	71.5%
がんやがん治療に伴い気持ちがつかくなく感じる人	66.5%	62.0%
身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると感じる人	42.4%	43.0%